

懇談テーマ1【那珂橋の今後の維持管理について】

那珂橋は昭和8年に建設され、橋長166m、幅員5.6mのトラス橋だが、昭和、平成、令和と三代にわたり黒羽地域発展のために多大なる貢献をしてきた。また、旧黒羽町の象徴でありパンフレットの表紙に「那珂橋・花月」の写真が使われていた。

しかし、92年が経過し、橋梁の損傷も多くみられ、2009年に橋梁塗り替え、今年度歩道橋の塗装整備が8,080万円で実施された。

国道461号線であり栃木県の維持管理となっているが、国道461号線バイパス建設計画に伴い、那珂橋本体の維持管理計画について、市として今後どのように考えているのか伺いたい。

【回答】

橋梁などの道路施設は、高度経済成長期に整備されたものが多いことから老朽化による安全への懸念が高まっており、平成26年の道路法改正に伴い、5年に1度の定期点検が義務付けられた。

那珂橋の維持管理について、管理者である栃木県に確認したところ、令和2年度の点検で確認された要対策箇所の補修工事を令和5年度から着手しており、完了は令和9年度を目指しているとのことである。

国道461号バイパス整備事業の完了後、那珂橋の維持管理は市に引き継がれる予定だが、健全な状態で引き継ぎがされるよう県と協議を進めたい。引き継いだ後は、黒羽地区のランドマークである那珂橋を後世に残せるよう、適切な維持管理に努めていく。

【再質問】

那珂橋については、市が健全な状態で引き継ぐとのことだが、地元では新しい橋ができた際に那珂橋は落橋になってしまうのではないかとという噂もある。そうなると、田町側と川西側が陸の孤島になってしまう。那珂川町の馬頭と小川の橋も落橋して困っているという状況も聞いている。

現在、歩道橋の塗装をしており、本体の橋梁の塗装も令和9年度に目指して行うとのことだったが、現状を教えてほしい。

新しい橋ができた場合、那珂橋を歴史ある橋として後世に残すといった考えはあるのかお答えいただきたい。

【回答】

現在、歩道橋の塗装作業を行っており、来年度、再来年度にかけて道路橋の桁の塗装など補修作業を行うと土木事務所から聞いている。

【回答】

新しい橋ができて、那珂橋は大田原市が引き継いで残していきたいと考えている。

荷重の問題で、大型車は通行不可ということになってしまうが、県から引き継ぐ際には、構造の問題があれば直していただき、塗装に関しても歩道橋だけでなく本体の橋梁も塗り替えていただいてから引き継ぎたいと考えている。

【意見】

新しい橋が架けられた場合、旧黒羽農協のところまで計画されていると伺っているが、その場合、現在の田町商店街付近の県道は、市の管理になると思われる。そういったことで、ますます田町が廃れるのではと心配している。そうならないような計画を進めていただきたい。

懇談テーマ2【国道461号バイパスの進捗状況について】

県の所管事業と思われるが、昨年、10年後開通を目指し、南金丸地区から大豆田地区黒羽交番前を経由し、黒羽田町、八塩地区方面までの国道461号バイパスについて、その計画概要の地元説明会が実施された。

本年から測量、ボーリング等準備が進んでいるようだが、当該関係地域の地権者の方々も自分の土地、建物がかかるかどうか法線等に関心を示しており、一日も早い完成を望んでいるところである。

大田原土木事務所に確認の上、現在の進捗状況と今後の計画、そして、当黒羽地区内のその先の前田、北野上地区のバイパス計画構想をお示しいただきたい。

【回答】

事業を進めている栃木県大田原土木事務所に確認したところ、当該バイパス事業については、令和6年3月に事業説明会を開催し、概ね了解を得られたことから、令和6年度に路線測量及び道路詳細設計、橋梁予備設計を発注し、現在も継続して業務を実施している。業務が完了次第、地元の方々への事業説明会を開催する予定とのことである。先日、土木事務所に聞いたところ、近々案内できるように準備しているとのことだった。

市としては、バイパス整備の早期事業化について、引き続き県に要望していきたい。

また、前田、北野上地区の計画については、現在進めている黒羽地区の事業の進捗を勘案しながら、整備のあり方を研究していくと伺っている。

【意見】

できるだけ早めに進めていただきたいと考えている。また、前田北野上地区のバイパスに関しても、前田商店街のところが、道路が狭いということで一番危険性があるため、早期着工を県に強く要望していただきたい。

【再質問】

那珂橋については現在工事が始まる段階だが、その後の前田北野上地区の日程はまだ示されていないのか。

【回答】

黒羽地区の終了時期が示されていないため、前田北野上地区に関してもいつになるか示されていない。

【再質問】

隣接している旭ヶ丘団地は、現在入居者の申込が中止ということだが、団地の取り壊しの計画は具体化しているのか。

【回答】

入居者を募集していない理由としては、団地の老朽化が進んでおり、そこに新しい入居者が入り長年居住することになると取り壊せない状態になってしまうためである。

現在入居している方がいることから、今年度、来年度に取り壊す予定はない。

【再質問】

橋が完成するのは10年ぐらい先だと思われる。団地も50年ぐらい経っている。地域の方々にいつ壊すのか聞かれるため、壊す見通しがあるのか伺いたい。

【回答】

バイパス道路の法線が確定すれば、ある程度の事業年度が分かるため、道路事業の進捗に合わせて団地の取壊しについて考えていかなければならない。

しかし、居住者に出ていただいて取り壊すということは、今のところは考えていない。ある程度目途が見えてきたら、居住者にアナウンスをさせていただくことになるので、その際に居住者の判断をいただくことになる。

【再質問】

計画が無いということなので、地元には、いつになるか分からないという説明をした方がよろしいか。

【回答】

道路事業の進捗に合わせるため、いつになるかというのは今の段階で明言できないということでご理解いただきたい。

懇談テーマ3【NHK連続テレビ小説「風、薫る」、大関和のPRの取り組みについて】

来年4月、NHK連続テレビ小説「風、薫る」で、半年間、黒羽田町に生まれた大関和さんをモチーフにした物語が放送されるというビッグニュースが新聞報道された。大関和さんと聞いても知っている方は少なかったことと思われる。日本の看護協会の先駆者、日本のナイチンゲールであると聞いて、郷土の誇りである。

来年の放送まで1年を切ったが、今後大田原市として全国にPR、受け入れ体制等具体的にどのように考えているのか、お示しいただきたい。

【回答】

2026年度前期、NHK連続テレビ小説「風、薫る」は、看護師という職業の確立に大きく貢献した本市出身の大関和と、静岡県生まれの鈴木雅の二人のトレインドナースをモチーフに描かれたダブル主演ドラマである。

原案となる著書は、田中ひかるさんの「明治のナイチンゲール大関和物語」である。

このドラマで本市が舞台の一部として取り上げられることで、全国的な注目を集めることが期待される。

市としても、この貴重な機会を最大限に生かすため、大関和の偉業をたたえる顕彰事業としての展示イベントを開催するとともに、観光協会や商工団体と連携し、SNSや観光パンフレットを活用しながら、観光資源や特産品、歴史文化などの魅力を広くPRしていく。

また、受け入れ体制についても、ボランティアガイドの育成や、受け入れマニュアルの整備など、ソフト面にも配慮し、地域一体となったおもてなしができるよう体制を整えていきたいと考えている。

【再質問】

6月の補正予算510万円の金額の内訳を教えてください。

【回答】

まず2つに大きく分けられる。商工観光課の観光推進事業164万円、文化振興課の大関和顕彰事業350万円である。

観光推進事業では、のぼり旗の購入費、デザインマンホール制作を構想に挙げている。

顕彰事業では、黒羽支所で大関和ゆかりの紹介や「風、薫る」の情報展を、芭蕉の館で大関和の業績等の人文的展示を行いたいと考えている。

また、原作者の田中ひかる氏を招いての講演会を考えている。

さらに放送間際の3月には、大田原市のお土産品やレストラン等を備えた道の駅隣接の那須与一伝承館において、大関和の人文的展示を、芭蕉の館でやっていたものをさらにグレードアップして行いたいと考えている。

【再質問】

のぼり旗の設置時期、場所は具体的に決まっているのか。

また、土産品の開発等に関して、市長をはじめとして四国に出向き検討研究してきた情報を伺いたい。

【回答】

のぼり旗は、NHKと入念な打ち合わせをしたうえで、9月以降に第2弾として新たに作り直したいと考えている。本数は全体で500本程度、黒羽地区に一番多く設置したいと考えており、他には佐久山、野崎地区公民館等、また主な街道沿いにも設置したいと考えている。現在、そのリストアップを行っている。

土産品に関しては、観光協会に土産品を開発できるような会員がたくさんいるので、観光協会で力を入れていくということで役割分担する予定である。

四国の件は、現在放送している「あんぱん」の舞台であり、関係している香美市を視察した。香美市は、黒羽地区から須佐木の方に向かったような、道が狭いところがある。高知県では観光に力を入れていることからインフラ整備にも力を入れており、その辺が高知県の特別事情のようであった。また、南国市も視察した。南国市は現在駅前でも市街地の整備を行っており、視察時には放送が始まったばかりということもあり観光客はあまり見かけなかったが、ゴールデンウィークあたりには観光客が訪れているとのことだった。その辺を参考にして、大田原市も取り組むということを目的に研修した。

視察した中で皆様にお伝えしたいことは、あまり早くキャンペーンを行ったとしても、それほど効果がないということである。直前でどれだけできるかということなので、その辺を参考に、今回は約500万円の補正を組んだ。また必要となれば、来年3月に向けた事業展開のための予算も考えていく。

【再質問】

NHKの制約というものは、大関和という固有名詞や明治のナイチンゲールの表示なども相談しなくてはならない難しい話なのか。

【回答】

「明治のナイチンゲール」は、原作本の作者の田中ひかる氏に許可を得て、市としても使用させていただいている。そのため、田中ひかる氏とNHKに使用許可の確認を取りながらのぼり旗を作成した。ドラマに関するロゴ等の商標権に関してもNHKが持っているため、表現の仕方などNHKと一つ一つやり取りして許可をもらうようにしている。

【再質問】

大関和の玄孫がいるのだが、その場合先祖の名前を使用するのはどうなのか。

また、名刺を作る場合はどうなのか。

【回答】

玄孫が大関和の名前を使用することについては、問題ないと思われる。

ただし、例えば「風、薫る」のロゴが正式に決まった際など、使用できるものとできな

いものがある。NHKに確認しないと分からないので、何かに使用する際は、一つ一つNHKに確認が必要になる。

【再質問】

10月に秋まつりを開催予定なのだが、地元でPRしたいと考えている。そのPR方法について、市長から意見があればいただきたい。

【回答】

10月にはのぼり旗ができていると思うので、ぜひ使っていただければありがたい。また、チラシなど作成する際は、商工観光課に問い合わせしていただければ表現方法などNHKとやり取りして確認させていただく。地元で盛り上げていただくと大変ありがたいので、市としても協力させていただきたい。

【再質問】

ロゴの話が出たが、先日黒羽商工会で勉強会をした時に、以前古関裕而の連続テレビ小説「エール」ではNHKとは別に独自のロゴを使って、独自の活動をしていると聞いたのだが、そのような考えはないのか。

【回答】

独自のロゴについては、大田原市として自由に使えるものを早めに作りたいと考えている。

【再質問】

お客様を受け入れる体制として、観光ボランティアの会があり、会員が勉強して準備しているらしいが、高齢化もあり大変だということである。そこで、そのような団体に少し支援していただくことはできないか。

また、施設について、招魂社のところに黒羽地区の先人の顕彰碑があるが、文字がほとんど読めなくなっている。小さな案内板でもいいので、一つ一つの碑につけて、観光で来た方が内容を理解できるものにできないかと常日頃思っている。そのこのところの市の考え方を伺いたい。

【回答】

まず管理している方がどなたなのか、また、その方がどのような考え方を持っているのかを確認させていただきたい。書いてあることについては、全文ではなく要約した形での展示であれば市の方で協力してもよいのではと考えている。地元で説明することができる方たちに何ができるかということについては、これから内部で検討していきたい。

再来年の大河ドラマで勝海舟が取り上げられるという話がある。取り上げられれば、初代海軍奉行の大関増裕さんも取り上げられると思うので、黒羽の有名な方をぜひ顕彰して、市として何ができるかということを考えていきたい。

懇談テーマ4【大宿街道から黒羽城址公園周辺の整備について】

市長は選挙公約で、黒羽地区は歴史と文化の薫る街であり観光資源が満ち溢れており、歴史を活かした観光地づくりを進めていく、とのことであつた。大宿街道は桜の名所であり、4月の桜花時期には多くの来客が訪れ賑わいを見せているが、近年老朽化が進み寿命を迎えている桜も見受けられる。

新たな苗木を、大宿街道と城址公園に植えていただきたい。また、市所有の土地及び建造物の再利用を考慮していただきたい。黒羽保育園、黒羽体育館、黒羽山村開発センター

等、早急に検討委員会を立ち上げ、大宿街道が夢のあるプロムナードになることを要望する。

【回答】

大宿街道沿いに新たな桜の苗木を植樹することについては、黒羽小学校の児童の安全な登下校、一般車両の安全な通行を考慮し、樹木の適切な維持管理を引き続き実施していくため、現在のところ道路管理者として桜の植え替えなど更新する事業計画は考えていない。

なお、随時、道路パトロールなど実施しているが、すべてに目が行き届くわけではないので、危険な枝木や通行に支障のある場合は道路課まで連絡をお願いしたい。

次に黒羽城址公園については、平成23年度の東日本大震災の災害復旧工事の際に本丸の土塁上部に桜の苗木を19本、平成27年度宝くじ桜寄贈事業の助成を受け、紫陽花橋周辺に桜の苗木を15本植樹しており、今後も樹木の適切な管理を実施していく。

次に市所有の土地及び建造物の再利用について、旧くろばね保育園については、令和5年度から建物の一部を民間事業者の有償で貸付けしており、契約期間は単年度契約だが、特段の理由がなければ毎年度契約更新している。

山村開発センターについては、昨年度も説明したとおり、国の補助金返還が伴わない50年を経過する令和8年度以降の解体を予定している。また、黒羽体育館についても電気設備や消火設備を山村開発センターと共有していることから、同時期に解体する方向で検討している。

山村開発センター及び黒羽体育館の跡地の利用については、現時点で未定だが、文化財保護法による埋蔵文化財包蔵地内で、かつ栃木県立自然公園条例第二種特別地域内となっていることから、土地利用計画上、開発制限のある区域であるため、現状変更を伴わない歴史文化区域として土地利用計画を検討し、黒羽城址公園と一体となった整備を広く検討していく。

【再質問】

黒羽城址公園は桜の名所であったが、今は紫陽花の方が主になっている。しかし、紫陽花の花が毎年減ってきており、咲かないものが多すぎる。肥料をやっているのか、それはちゃんと完了しているのか。

剪定の時期を考慮して、紫陽花の管理をしているのかどうかを伺いたい。

【回答】

紫陽花の花のつきが悪いということは何年も前から報告されている。管理に関して、芽の摘みなどは例年きちんとやっているが、話によると、1年くらい紫陽花まつりを休んで、養生させた方がよくなるということを聞いている。しかし、紫陽花まつりの人出が多いことから、1年休むということに踏み切れないでいる。今後については、黒羽商工会が紫陽花まつりの主催であるため、黒羽商工会でどうするかということを検討するよう伝えたいと思う。

【再質問】

来年の春からは大関和の放送が始まり、観光客も城址公園はじめ近辺にたくさん来ると思われる。その中で山村開発センターの外観を見て、観光客は、なんだこの建物はとなるのではないか。国の補助金の関係で来年の予算で壊すことになるのだと思うが、今年で49年経ち、49年も50年もだいたい同じだと思うので、補助金返還といっても金額的にそれほどないのではと思う。時期を前倒しできるように市から国に現状を訴えて、来年の9月まで待たなくても対応していただくことができる気がするのだが、市長はどうお考えか。

【回答】

令和8年9月までは壊せないと思うが、時期が来たらすぐ解体除却できるような準備を進めていく。補助金返還は少ないだろうといわれるが、大田原市にとっては貴重な財源である。9月になったら、すぐ取り掛かれるよう準備をしていきたいと考えている。国の補助金を入れて市の持ち出しが少なくて済む道路事業などもいろいろ進めており、市の財源を大切にしていきたいという思いがある。令和8年9月以降には、スムーズに解体除却に入れるよう準備をしていくので、ご理解いただきたい。

【再質問】

貴重な予算だということは分かるが、黒羽地区は過疎地域に入っており、市から国のパイプを使って積極的に取り組んでいただければ何とかなるのではという気がするので、市長の政治的判断でお願いしたい。

【回答】

一度前倒しで補助金の返還も含めた形で、国に確認を取るので、お時間をいただきたい。

【再質問】

自治会に関係する立場になり、地域とのいろいろな付き合いを通じて、初めて市の行政が地元の高齢者や見守りのことなどいろいろなことに関わっていることが分かった。そこで、西高東低じゃないが、大田原市も西の方は盛り上がっており、東の方はだんだんとしぼんでしまっていることに気づくことができた。

懇談会に参加して感じたことは、この黒羽地区の文化を、来年始まるドラマに便乗するわけではないが、PRできるようにするといいのではと思っている。黒羽小に2度勤務したことがあり、子どもたちの地元の文化に関する意識など、時代とともに変わっていくものもあると感じた。子どもたちに地域に関心を持ってもらいたいが、それにはやはり学校や市や教育委員会ではないかと思っている。子どもたちと地域が触れ合う機会など、もっと俯瞰できるような見方が我々自治会の方でできるといいのではと思っている。

【回答】

子どもたちが自分の郷土に誇りを持つことは非常に大切なことだと私も常々考えている。各学校の校長先生には、郷土を愛する心を育てるような取り組みをしていただきたいとお願いしている。黒羽小学校に勤務されていたとのことだが、黒羽小学校には、学校にお願いして一昨年歴史クラブを設置した。そこで特に黒羽小学校の子どもたちは、地域を歩き、地域の良さを知るといった活動を取り入れている。

黒羽小中学校は、小中一貫教育を進めており、黒羽小学校に限らず4つの小学校と中学校が一体となり、令和6年度まで、地域に誇りを持とうという取り組みをしてきた。さらに令和7年度、新たなテーマを設けて、地域と共にある学校づくり、学校を核とした地域づくりを進めている。

今回大関和についても、黒羽地区に限らず市内小中学校において、子どもたちに広めるため資料を配った。さらに学習したいという学校があれば、学芸員が出向いて講話をすることで、その功績を知らせるといった取り組みを行っているところである。

その他【大雨被害について】

【質問】

片田、亀久の大雨に関して、黒羽高校の入り口の丁字路の商店のところで、道路の側溝から水があふれて床下浸水してしまったようだ。そういう床下浸水などは市でチェックし

ているのか。

その流れてきた水は給食センターの駐車場から川のように流れてきているとのこと。駐車場がアスファルトであるため流れてきてしまっている。道路の問題になるかと思うが、その辺も考慮していただきたい。

【回答】

床下浸水があったという報告は受けていない。危機管理課の方でも把握はしていないと思われる。

【再質問】

床下浸水などは自治会長がチェックして報告するのか、それとも被害を受けた個人が報告するのか。

【回答】

まず道路に関して、商店のところの丁字路の現地確認をさせていただきたい。水が溢れるということはいろいろな要因があるので、その原因の現地確認をさせていただきたい。また、国道461号も関係することから、管理者である県に確認する。

【回答】

床下浸水など水が溢れる状況の時には、すぐ市の方に連絡させていただきたい。その側溝をどうすればいいのか道路課と話をし、職員も現場に駆けつけるということになる。ご本人でも区長さんでも結構なので、まずご一報させていただきたい。その溢れる原因が何か、道路課の方で原因究明を行い、側溝から水が溢れない対策について確認させていただく。

その他【休日の緊急連絡先について】

【質問】

国道461号の両端に木が生い茂っていて、大きい車が木に接触すると、太いツルがぶら下がってくる。そのような時、土日祭日だと緊急連絡先が分からない。以前警察に連絡し対応してもらったが、現在も途中でツルが切れているような状態で、そこをゆっくり通るので渋滞してしまう時がある。土日祭日の緊急連絡先はどこか。

もう一つ、小中学生の通学バスやごみ収集車が空き地でUターンをしている。昨日か一昨日にはうちの店先でUターンしていることがある。

【回答】

土日祭日等、市役所が開いていないときは、消防署に連絡していただきたい。そこから危機管理課の担当に電話がいくようになっている。そこから市の各部、例えば道路であれば建設部になど、危機管理課で振り分けさせていただく。

【回答】

スクールバスは、基本的に決められた場所で旋回することになっている。実際に運行している中で、場所を変えなくてはならない理由があるのかどうかということ含め、運行業者に事情を確認する。運行事業者には、決められた場所で回ると話させていただく。

【回答】

基本的にごみ収集車は公道を通り、回収することになっている。民有地には基本入らないような運用をしているが、具体的な場所が分かれば教えていただきたい。